



伝承の技がよみがえる 第3回庄原市民俗芸能大会が開催

REPORT ③

今年で3回目を迎える庄原市民俗芸能大会が11月21日、庄原市民会館で開催されました。

庄原市の指定文化財を保持する4団体が、古くから伝承されてきた、田楽、民謡、祭り、踊りなど、貴重な民俗芸能を余すことなく披露しました。

今回は、民俗芸能のほかに神楽の部が設けられ、市内外の5つの神楽団が華麗な舞を競いました。

600人を超える来場者は、懐かしの芸能や勇壮な神楽を、時が経つのも忘れ、食い入るように見入っていました。



第3回庄原市民俗芸能大会

▲県指定民俗文化財比和牛供養田植

REPORT ④

初心を忘れず。安全運転を再認識 県立広島大学で二輪車交通安全研修会

県立広島大学庄原キャンパス駐車場で11月16日、二輪車交通安全研修会が開催されました。

ことし、県立広島大学庄原キャンパスの学生が関係した、二輪車による重傷事故が連続して発生したことから、学生に二輪車の特性や危険性を再認識してもらおうと、県立広島大学と庄原地区交通安

全協会、庄原警察署などが合同で開催しました。

広島県警察本部の白バイ隊員2人が、模擬コースでのジグザグ走行や一本橋走行などを実技指導。参加した大学生約30人は、さらなる安全運転技術の向上を目指し、真剣に取り組んでいました。また、四輪自動車を活用した死角体験なども行われました。

最後に、学生の代表者が「今日の研修を十分に生かし、常に交通安全への意識を心がけ、事故を起こさないよう安全運転を励行したい」と力強く宣言し、研修会を締めくくりました。



▲真剣に耳を傾ける県大生

庄原のまちがやさしい光に包まれる まちなかホワイトイルミネーション

REPORT ⑤

庄原の市街地を光で彩る「しょうばらまちなかホワイトイルミネーション」点灯式が12月4日、市役所1階市民ホールで行われました。

この催しは、国営備北丘陵公園への観光客をまちなかへ呼び込もうというクラスター事業の一環で、光のまち庄原実行委員会が企画し、ことしで3回目となります。

夕暮れからとても冷え込みましたが、近所の方をはじめ約80人が参加。市民ひろばに開店した屋台村の食べ物で体を温めながら、市民ホールのミニコンサートを楽しんでいました。



▲市民ひろばのイルミネーション



ぐるり庄原 Look Around Shobara Camera Report カメラレポート

REPORT ①

未来の宇宙飛行士集まれ！ 庄原青年会議所が「宇宙の話聞こう。」を開催

社団法人庄原青年会議所が主催する「宇宙の話聞こう。」が11月26日、庄原市民会館で開催されました。

市内で宇宙のことに触れる機会がないことから、日本人宇宙飛行士の活躍を目にした同会議所のメンバーが、市民に宇宙を身近に感じてもらいたいと企画しました。

会場では、国際宇宙ステーションの模型展示や宇宙

飛行士の活動などを分かりやすく紹介したビデオ上映、宇宙服の試着ができるコーナーや宇宙食の販売などが行われました。

宇宙服を試着した子どもたちは「大きかった」「暑かった」「動きにくい」などはしゃいんだり、宇宙が描かれた背景をバックに宇宙遊泳をまねたりしていました。

また、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の山口孝夫さんによる講演も行われ、親子連れなど多くの方が壮大な宇宙の魅力に引き込まれました。

同会議所、地域の宝発見委員会の尾野義頭委員長は「少しでも宇宙に興味を持つ人が増え、将来庄原から宇宙飛行士が誕生すればうれしい」と話していました。



▲宇宙服を試着する子ども



▲宇宙の話しを聞く庄原保育所の園児たち

トンネルキャンパスで思い出づくり 尾道・松江自動車道大万木トンネル見学会

REPORT ②

平成24年度末の開通を目指して工事が進められている尾道・松江自動車道の大万木トンネル工事現場見学会が、11月17日に行われました。

広島県(庄原市)と島根県(雲南市)をまたぐこのトンネルは、全長が4897m、両側から同時に掘削を進めています。

この日招待された、高野中学校の全校生徒66人と教職員は、広島県側からトンネル内に入り、入り口から



掘削が進む約1300m地点(切羽)まで移動。

現場では、掘削石や掘削機械、工法などの説明を受けたり、避難坑(何かあったときのためのトンネル、非常口でつながる)などを見学したりしました。終わりに、850m地点の壁面に用意された、防水シートが施された「トンネルキャンパス」に、名前やイラスト、将来の夢などを思い思いに書き込みました。国土交通省中国地方整備局の鈴木監督官は「開通後はコンクリートで覆われて見えなくなるが、永遠に残る。いつかここを通るとき、この壁を思い出してほしい」と話していました。トンネルがつながるまで、残り1600mです。



▲掘削跡や機械などに興味津々の生徒たち

生演奏と歌声がひびきわたる 第22回庄原市東城町音楽交流会

REPORT ⑨

今年で22回を迎える東城町音楽交流会が11月12日、東城町老人福祉センターで行われました。

東城町内の保育所・小学校・中学校・高等学校が一堂に集まるこの交流会に、10団体317人が参加しました。

町内4カ所の保育所年長児が「公園にいきましょう」など3曲を元気よく合唱。続けて、各学校が歌や踊りなど、日ごろの練習の成果を発表しました。

小奴可小学校は、トランペットや小太鼓といったブラスバンド演奏を披露。最後は、東城中学校吹奏楽部の演奏に合わせて、参加者と観客席が「崖の上のポニョ」を大合唱し、音楽を通じて会場が一つになりました。



▲元気いっぱいに歌う東城小の児童

REPORT ⑩

多くの人に支えられて34回 歳末たすけあい芸能大会

愛されて40年 ヒバゴンフェア

歳末たすけあい芸能大会が12月5日、ウィル西城で開催され、400人を超える来場者でにぎわいました。

この大会は、広島県共同募金会庄原市支会と庄原市社会福祉協議会が毎年開催し、住民や出演者、ボランティアスタッフに支えられ今年で34回目を迎えました。今回は、保育園児や小学生をはじめ、町内外の個人、グループ団体など過去最高の33組が出演し、楽器の演奏や踊り、演劇などを披露しました。

また、この日に合わせて、西城地域のまちづくりを考える住民ワークショップ西城円卓会議

が、出沒40周年を迎えたヒバゴンをテーマにした「ヒバゴンフェア」を開催。会場内では、西城産のさつまいもを使ったヒバゴンスイーツやキャラクターグッズのコーナーが設けられ、隣接する西城支所庁舎では、ヒバゴンの歴史をまとめた年表や関連グッズ、歴代の着ぐるみなどを展示するヒバゴン展が始まりました。

なお、この日寄せられた募金341,129円は、県共同募金会に納められ、市内全域の福祉事業に有効に活用されます。



▲ヒバゴングッズの販売コーナー

日ごろの活動と地域づくりが評価 北自治振興区が広島県社会福祉協議会長賞

REPORT ⑪

広島県ふくしのまちづくりのつどいが11月15日に広島県社会福祉会館で開催され、北自治振興区が広島県社会福祉協議会会長表彰を受けました。

このつどいは、社会福祉の向上に尽力した方への感謝と、だれもが安心して暮らせる地域福祉を目指すため、県内の社会福祉関係者が集まり、協働の進め方を考えるつどいです。

北自治振興区は、住民自治の重要性を深く認識し、日ごろから積極的な福祉活動を実践、災害にも強い地域づくりに努めたことが認められての表彰となりました。

また、同振興区はつどいの中で、7月16日の豪雨災害を振り返り、日ごろの活動や支え合いから生まれた地

域力が、被災者の支援活動に大きな力を発揮したことを報告。

住田鉄也区長は「自治意識が浸透してきたことで、区民の意思疎通が図られ、組織連携がとれる深い人間関係が築けている。このことが評価されたのだと思う」と喜んでいました。



▲表彰状を手渡される住田区長

REPORT ⑫

ブッポウソウの生態を再確認 守る会などが巣箱を点検・調査・清掃

総領町の「ブッポウソウを守る会」と「日本鳥類保護連盟 芦田川分会」が共同で、11月28日にブッポウソウの巣箱清掃を行いました。

これは、保護活動の一環として、総領町内の45カ所に設置してあるブッポウソウの巣箱を点検し、内容物の調査や掃除、巣箱の補修を毎年行っています。

巣箱はすべて開閉できるようにしてあり、ブッポウソウが入った巣箱からは、敷き草や卵の殻、餌となった甲虫の殻などが出てきました。巣のつくられた状況や、フンの重さを調べる事で、雛の数を推測し、今後の保護活動に役立てます。

中には、ムササビが住み着いている巣箱があり、箱を開けるとムササビが慌てて飛び出してきました。その巣箱はそのままにしておいたので、ムササビの登場は毎年の恒例になりそうです。



▲巣箱の内容物を確認するメンバー

多くのユニークな作品がズラリ 口和自治振興区短歌・俳句・写真コンテスト作品展

REPORT ⑬

第10回口和自治振興区短歌・俳句・写真コンテストの応募作品が12月1日から8日まで、ヒューマンライツで展示されました。



▲作品を観賞する区民

これは、文化振興事業の一環として始めたコンテストで、区民の文化の振興、向上を目的としています。今回は、庄原市文化協会口和支部会員や口和の短歌会などのクチコミで、市内をはじめ、三次市・安芸高田市からもたくさんの応募がありました。

短歌の部は、一般の部20人55作品、ジュニアの部20人30作品、俳句の部は、一般の部14人42作品、ジュニアの部76人185作品、写真の部は、7人20作品の応募があり、それぞれ、天賞(1位)、地賞(2位)、人賞(3位)、口和自治振興区長賞、庄原市文化協会口和支部長賞が選ばれました。

審査員は「どの応募作品もユニークで作者の意図がしっかり伝わってくるものばかり」と講評していました。

REPORT ⑭

特産品販売でわが町をアピール 比和中学校2年生体験学習

比和中学校の2年生が『わが町自慢』の発表会と販売体験を11月2日に開催しました。

当日は、庄原さとやまバスツアーで訪れた人や地域の皆さんなど多くの人で、まちなかが活気に溢れました。

生徒たちは、まちの自慢を紹介する「わが町自慢」ポスターを作成し、比和のまちなかの家13軒に展示。また、そのなかの1軒「ひばーの縁側」で、比和産の農産物などの販売体験を行いました。

初めての体験でとまどいながらも、お客さんに特産品を元気にアピール。生徒は「多くのお客さんの笑顔に接してよかった」「地域の人とふれ合うことができた」と笑顔で話し、「売り切れた商品があったので、もっとたくさん用意したほうがよかった」「並べ方をもっと工夫したらよかった」と次回の販売に意欲を見せていました。



▲販売体験の様子